

製品名: TBX1 ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab18698**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、ラット、マウス
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:200-1:1000,ELISA 1:10000-1:20000
分子量	43kDa

抗原情報

遺伝子名	TBX1
別名	TBX1; T-box transcription factor TBX1; T-box protein 1; Testis-specific T-box protein
遺伝子 ID	6899.0
SwissProt ID	O43435
免疫原	抗血清はヒト TBX1 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 311-360

背景

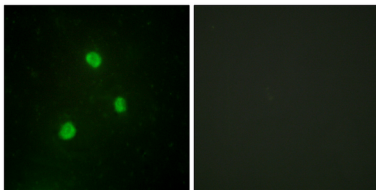
この遺伝子は、共通の DNA 結合ドメインである T ボックスを共有する、系統学的に保存された遺伝子ファミリーのメンバーです。T ボックス遺伝子は、発達過程の制御に関与する転写因子をコードします。この遺伝子産物は、マウスの相同遺伝子と 98%のアミノ酸

配列同一性を有しています。神経堤関連発達障害を特徴とする一般的な先天性疾患であるディジョージ症候群 (DGS) /口蓋心臓顔面症候群 (VCFS) は、染色体 22q11.2 の欠失と関連付けられており、この遺伝子はそこにマッピングされています。ディジョージ症候群のマウスモデルを用いた研究では、この遺伝子が DGS/VCFS の分子病因において重要な役割を果たしていることが示唆されています。この遺伝子については、異なるアイソフォームをコードする複数の選択的スプライシング転写バリエーションが報告されています。[RefSeq 提供、2008 年 7 月]、疾患: TBX1 の欠陥は円錐幹心奇形 (CTHM) の原因となる[MIM: 217095]。CTHM は、ファロー四徴症、肺動脈閉鎖症、右室兩大動脈出口症、総動脈幹、大動脈弓異常などの心臓流出路異常から構成されます。疾患:TBX1 の欠陥は、ディジョージ症候群 (DGS) [MIM:188400] の原因です。疾患:TBX1 の欠陥は、口蓋垂心臓顔面症候群 (VCFS) [MIM:192430] の原因です。疾患:TBX1 遺伝子のハプロ不全は、ディジョージ症候群 (DGS) および口蓋垂心臓顔面症候群 (VCFS) [MIM:188400, 192430] にみられる身体的奇形のほとんどの原因です。DGS は、胸腺および副甲状腺の低形成、先天性円錐体幹心疾患、そして軽微ながらも特徴的な顔面形態異常といった複数の奇形を伴うことを特徴とする。VCFS は、先天性円錐体幹心疾患、口蓋裂または口蓋垂閉鎖不全、顔面形態異常、学習障害を伴うことを特徴とする。現在では、これら 2 つの症候群は、人生の異なる段階で発現する同一の疾患の 2 つの臨床的発現形態であると認められている。機能: 発達過程に関与する転写調節因子と考えられる。咽頭弓動脈の正常な発達に必要である。類似性: T ボックス DNA 結合ドメインを 1 つ含む。

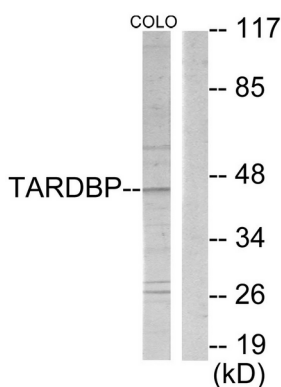
研究分野

神経科学、神経プロセス、神経変性疾患、エピジェネティクスと核シグナル伝達、転写、ドメインファミリー、発達ファミリー

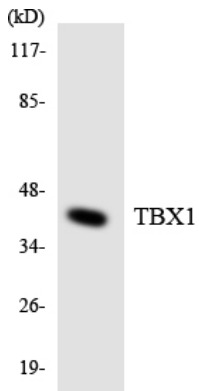
画像データ



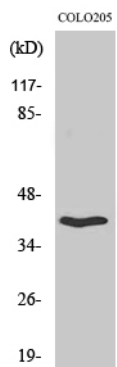
TBX1 抗体を用いた A549 細胞の免疫蛍光染色。右の写真は合成ペプチドでブロッキングした画像です。



TBX1 抗体を用いた COLO205 細胞ライセートのウェスタンブロット解析。右レーンは合成ペプチドでブロッキングされている。



TBX1 抗体を使用した 293 細胞の溶解物のウエスタン ブロット分析。



TBX1 ポリクローナル抗体を使用したさまざまな細胞のウエスタンブロット分析。